

平成31年度 認知症初期集中支援チーム 実績報告

(R1年12月20日現在)

No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	訪問回数	診断名	対応結果
1	女	75	民生委員	地域包括支援センター	4月	8月	18	認知症	遠方に在住の家族とも連携し、本人の意向を伺いながら受診及び介護保険サービスの利用を調整した。その後、ケアマネジャー及び担当地域包括支援センターへと引き継いだ。
2	女	66	家族	地域包括支援センター	5月	—	29	アルツハイマー型認知症	独居で服薬管理の課題があるため支援実施中。市外の医療機関へ時間をかけて受診に出向いていたが、市内の医療機関へ徒歩で受診できるよう調整した。今後、介護保険サービスの利用に向けて調整を行う。
3	男	72	家主	地域包括支援センター	6月	12月	53	高次脳機能障害等	支援の介入に拒否的であったが、人間関係の構築と共に介護保険サービス利用の調整まで至った。認知症以外の課題も多く支援が必要なケースであるため、担当地域包括支援センターへと引き継いだ。
4	男	89	近隣住民	地域包括支援センター	7月	8月	6	認知症	介護サービスや受診に必要性を感じておらず支援の介入に拒否的であったが、人間関係の構築と共に往診医による定期的な受診が可能となった。しかしR1.8.8 自宅にて急変。同居の姉が知人や親戚へ連絡し駆けつけた後、救急搬送するも死亡が確認される。
5	女	67	民生委員	地域包括支援センター	7月	—	19	—	病識の欠如、受診拒否、家族の疾患への理解の不足等、複合的な課題を抱える家庭でもあるため、支援実施中。近隣住民や同居家族等、周囲の人間関係からアプローチし、キーパーソンとなる人物を模索中。
6	女	93	近隣住民	地域包括支援センター	7月	10月	13	認知症	医療機関への受診が課題の一つであったが、人間関係の構築と共に往診医による定期的な受診が可能となった。その後、介護保険サービスの利用を調整し、ケアマネジャー及び担当地域包括支援センターへと引き継いだ。
7	女	77	家族	地域包括支援センター	10月	—	4	アルツハイマー型認知症	認知症進行の可能性により日常生活に支障をきたすようになったため、支援実施中。同居家族へ正しい接し方を指導することで、徐々に家族から本人への声かけが変化している。また、本人自ら受診し軽度認知症と診断される。
8	女	67	家族	地域包括支援センター	11月	—	6	アルツハイマー型認知症	受診拒否が強く、同居家族の負担が増しているため、支援実施中。
9	女	82	家族	地域包括支援センター	11月	—	5	—	症状進行の可能性により金銭のトラブル等、日常生活に支障をきたすようになったため、支援実施中。